

第11号

定価一年間300円
組合員の購読料は
組合費に含む



発行

檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1
Tel 0139(52)0858 FAX(52)1490
発行責任者 白山 尚
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

主催者あいさつ・白山尚会長(要旨)



「生活記録ノート」に子どもたちの多様な日々が綴られ、心身の不安感も垣間見られる。2年生のある生徒が、「自分たちはまともに行事や部活もなく中学生生活の半分を終える」と、ふだんは元気に振る舞う生徒だが、そう強く表情には不安感が滲んでいた。子どもたちが生き生きと学び、生活できる環境を早く取り戻したい。

今夏の実践報告集では山根先生の実践に学んだ。子どもに寄り添い、地域と結ぶその着想と創造性に多くの感想が寄せられた。本集は2年ぶりとなるが、子どもと実践を語り合い、日常の教育の内実を掘り下げる場とした。大いに交流を深めていこう。

子どもとつなぐ

2021檜山合研オンライン集会



日常見つめ直す機会に

10月2日、檜山合同教育研究会(すすめる会主催)がオンラインで開催されました。22名が参加しました。

冒頭、白山尚すすめる会会長が主催者を代表してあいさつ、「子どもに寄り添う交流を」と訴えました(別項)。内糸俊男事務局長が基調報告、子どもの実態と切り結ぶ実践視点の重要性を強調しました(別項)。

4つの分科会に分かれて交流。小学校分科会には6名が参加。物語教材の指導やICT活用の授業など3本のレポートが発表されました。国語科と周辺領域の関連、言葉の機能、語り手と視点、長短を踏まえたICT活用などが論点になりました。多様な工夫を学び合



基調報告・内糸俊男事務局長(要旨)

実態をつなぐ

子どもたちの生活世界から「自然」がなくなっているという。田と畑の区別はつくが、畑に何が植わっているかまで関心が及ばないと。子どもたちの生活は、社会の変化とともに大きく揺らいでいく。だからこそ、自然や社会とのかかわりを意識したとくくみを大事にしたい。

プルタブ回収で車いすを寄贈する事業があるが、なぜプルタブなのか? その経緯を探ると意外な事実が分かる。身の周りにある「なぜ?」に目を向けていきたい。画一化された環境は子どもの中に潜む発想力を奪うことにならないか。子ども

特別支援学校に設置基準



NHK報道「特別支援学校 子ども急増で」より

9月24日、文科省は「特別支援学校設置基準」(省令)を初めて制定しました。「特別支援学校を設置するのに必要な最低の基準」とし、「設置者は...これらの水準の向上を図ることに努めなければならぬ」と規定(第1条)。今後、特別支援学校で学ぶ子どもたちの教育条件の改善を図っていく上で、重要な足がかりとなります。また、施行日(23年4月1日)以降に設置される特別支援学校には、必要な教室が備えられ、ほとんどの学校で図書室が設置となります(第15条)。さらに既存校への適用については、「当分の間、なお従前の例によること」ができる」と猶予され、可能な限り速やかに設置基準を満たすこととなるよう務めることとされ、各自自治体で「集中取組計画」の策定を今年度中におこなうことと、その計画の着実な実施を求めます(通知)。

養護教諭の配置については、「可能な限り全ての特別支援学校に」置くこととされました(通知)。このように教育環境の改善につながる内容が見られます。設置基準の策定に至るまでには、保護者、教職員、教育研究者、市民による様々な共同のとりくみがありました。檜山でもとりくまれました「特別支援学校の実効ある設置基準を求める請願署名」は、この10年間で57万筆を超え、国会に提出されました。恒例の署名運動である「えがお署名」や「教育全国署名」の請願事項にも取り上げられてきました。今年5月に公表された「基本案」に対するパブリックコメント応募期間には、改善を求める切実な要望意見が多数届けられ、今回の基準策定に

貴重な前進 さらなる改善を

いくつかが反映されました。しかし、策定された設置基準には、児童・生徒数の上限、学級あたり複教員の配置、備えるべき特別教室などの施設・設備、通学時間の上限、既存校の適用猶予年限などが規定されませんでした。教室不足の解消と教育環境の改善という制定の趣旨(通知)に照らして、あまりに不十分です。全国に実際に存在する500人超の過大校を容認し続けることとなり、抜本的解消につながりません。

今後、設置基準を踏まえて、既存校の面積基準未充足や図書室未設置等の速やかな整備を求めています。また、地域に根ざした適正規模の学校の設置、必要な教諭・専門職の配置、必要な特別教室等の施設を規定した設置基準となるよう、見直しを求められます。学校新設にかかる国庫補助率の引き上げなど国の財政保障が肝要となります。子どもたちの豊かな学びの保障をめざし、引き続きご協力をお願いします。

うとともに、人間を育むという実践視点が共有されました。中学校分科会には6名が参加。社会、保体、技術の各教科と道徳で4本のレポートが発表されました。地球温暖化と社会の在り方、考え合うリレー学習、子どもの実態とものづくり、体験を素材にした独自教材と道徳の授業などをテーマに交流しました。「人格」に働きかけるという教育の原点を確かめました。

特別支援教育分科会には4名が参加、小学校の現場から2本のレポートが発表されました。子どもの特性を生かした指導やコーディネートとの役割と職場の共同、保

護者の思いと子どもも支援などが話題になりました。保護者や教職員の願いを掘り下げていくことの大切さが語られました。

養護教諭分科会には6名が参加。生活指導や保健指導、性指導など3本のレポートが発表されました。チェックシートの活用と生活リズムの確立、性差やジェンダー平等、性差別や性的マイノリティーへの偏見の克服などが話し合われました。また、掲示物のアイデアを交流、情報を共有する場ともなりました。

全体を通じて、教育の「根底」を意識した実践の大切さが確認される場となりました。

9月28日、高教組・道教組・自治労連は北海道人事委員会と交渉を実施しました。

ポナスについて、「道内民間は昨年4月より減少すると見込んでおり、減少幅は昨年を上回る見込み」と回答し、昨年の勧告0.05月よりも大きな較差があると示す厳しい内容となりました。

一方、この間求めは10月上旬予定。人事委員会勧告

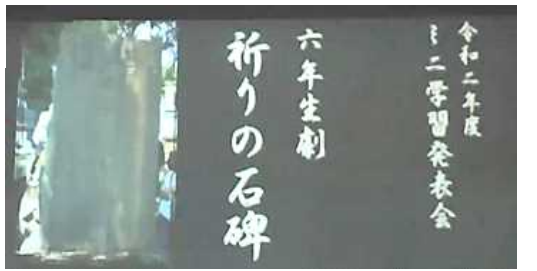
不妊治療休暇「検討」の回答

人事委

「本年の報告内容について、現在、検討をすすめている」との回答を示しました。同休暇制度は檜山からも強く要求してきた課題です。

再任用職員の寒冷地手当支給や実効ある超勤解消について、早急な改善を求めました。

檜山合研・檜山民教共催 2021実践報告集会 紹介 最終



エンドロールの一場面

6年生と学ぶ

「総合的な学習」「国語」「ミニ発表会」

山根里美さん(上ノ国小学校)

スペイン風邪では、上ノ国で116名も亡くなって、すごく悲しい出来事でした。そのことを母さんたちに余すことなく伝えました。改めておれたちのひいひいおじいちゃん、おばあちゃんは、これに苦しめられてたのかもしれないと思うと心苦しいです。だから、スペイン風邪のことを教えてくれた学芸員さんのおかげで、今のコロナウイルスの対策をがんばろうと思いました。

学習を振り返りながら子どもたちがつづけた文章を紹介しします。今につづく歴史の事実に向き合い、自分たちにつながる人々の息づかいを感じ取ります。真実との出会いを通して自らの歴史と世界を刻み直していく姿が浮かび、学びというものの営みの真髓がにじみ出てくるようです。

感染症の歴史調べから劇へ

伝えたい

子どもらのつづりから

歴史認識とともに深まる人間理解

100年前のスペイン風邪はコロナよりひどくて人々は苦しめられたんだらうな...と考えると、こわいです。そのことを劇にした「祈りの石碑」を演じるためには、山根先生や松尾先生がなりきることが大事だって言ってくれた。だから、100年前の人になって(なまり方)演じた。あと、スペイン風邪のことをくわしく教えてくれた塚田さん・熊谷さんには、本当にありがたく思っています。ぼくたちが知らないスペイン風邪のことを教えてくれたからの劇だから、とても良い思い出になったと思う。

スペイン風邪が流行ったのは、1919~1921年で、上ノ国にスペイン風邪が来たのは1921年と少し遅い。もしかしたら、コロナも2021年に上ノ国ではやるかもしれないと心の中で僕は思っていました。でも、そうならないために、昔のように予防していこうと思いました。

重ねて考えると、コロナもそのうち上ノ国ではやるんじゃないかと不安になった。でも、当時の人々は、がんばってスペイン風邪を乗り切ったんだと思うと、少し不安が消えて、「やってやる」みたいな気分になった。スペイン風邪にかかった人も、かかっていない人も、どちらも悲しいし、苦しかったと思う。千代のセリフの通り、自分もスペイン風邪で亡くなった人の分も生きて、コロナを乗り切ろうと思えた劇だった。

私はコロナが史上最悪な病気だと思っていたけど、スペイン風邪も苦しんだことを知り、あらためて病気のおそろしさというのを知りました。私たちが経験したコロナも時間がたてば「令和にコロナっていうものが流行ったんですよ」と言われるのかなって考えたこともあった。私たちが経験したことは、きっと未来で役にたっていると思います。石碑のことは、もっと知らせた方がいいと思うな。

今の人たちよりも、苦しくて大変だったと思う。今とは違って、お金がなかったり、車がなかったりするから、医者も来れなかったらうし、救えなかった命が多かったと思う。この石碑によって、昔に起きたことが現在まで伝わっているから、あの石碑は、これからの未来も大事にしておきたいと思った。

コロナウイルスでうんざりしている中でスペイン風邪の劇をやりと知ったとき、正直あまりやる気ではなかった。でも、自分で調べたり、学芸員さんから教わったりしたことで、昔の人たちが今よりも大変な状況の中で前向きに強く生きていたことを知り、自分たちも前向きに生きようと、そして「この劇でこのことを伝えたい」そう思えた。



エンドロールのスクリーンを背景に全出演者揃い踏みであいさつ

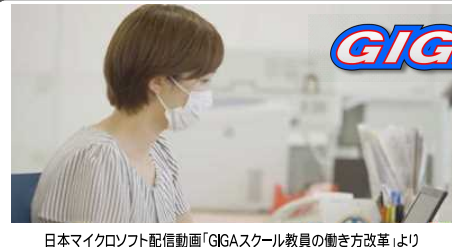
報告視聴者感想紹介

ワクワクワクワク感

●子どもにワクワク感を与える意識を強く持とうと思った。●非常に学ぶことが多かったの、参加できてよかったです！●子どもたちに物語のイメージや流れを作ってもらうことで「自分達で作る劇」という意識をもつことができたんだと思いました。学習計画は流れがわかりやすく、山根先生の構造化能力が凄く思いました。また、一度やったことのあるものの実践例(オオカミ王ロボ)をもとにした物語の展開の例を子どもたちに表示することで、物語の展開をどんなものにしたらいのか考えることができるんだと思いました。本当にありがとうございます。

●今日の実践発表を楽しみにしておりました。レポートを見させていただいたときの箇条書きの文章の言葉に惹きつけられワクワクして、早くお話を聞きたい！と。そして今日、山根先生の力強いお声、あれから1年になろうとしている実践をかみしめながらの内容に感動しました。総合国語発表と子どもたちの意欲が高まるような声かけ(徒歩でお寺にたどり着くまでのフライング)をたくさん聞かせてほしいなと思いました。職員室の隣の松尾先生や渡邊先生の協力を仰ぎ、協力いただけたことも、山根先生のお人柄だからこそですね。子どもたちは調べて、演じてみて考えたことがたくさんあったようで、そこから私も学ぶことがありました。コロナ禍を乗り越えたいですね。私は、歌手・竹内まりやさんのファンで、「いのちの歌」も大好きです。特に、生まれてきたこと、育ててもらったこと、このいのちのありがたさという詩が好きです。きつと山根先生が担任した子どもたちも、何かを感じてくれたことでしょうか。今日は貴重な発表をありがとうございました。●山根先生が何に価値を感じ、何を大切にしているのか、学んできたが、実践報告からよく伝わってきました。今、現場は窮屈ですが乗り越えていかなきゃと後押しされたと思います。

報告を視聴した参加者のうち18人の方々から感想が寄せられました。連載して紹介します。



日本マイクロソフト配信動画「GIGAスクール教員の働き方改革」より

GIGAスクール 4

教職員の専門性と負担増

中教審答申は「ICT環境の整備が進んだとしても教師としての基本的役割が変わるものではない」としながらも、「ICT活用指導力を明確化する」とし、「現職の全ての教師に求められるICT活用に係る基本的な資質・能力を示した『教員のICT』」を掲げ、4校に1人の配置であり、すべての学校で対応できるものではないと述べています。多くの学校から「機器が入ったが、設定や保管管理で振り回される」等の声があがっています。担当教職員や専門的な知識・技能を持つ特定教員へ負担が集中することも指摘されます。国の予算で示されるのは端末整備や学校ネットワーク環境整備などです。機器の更新やメンテナンス、ソフト購入などは除外され、自治体財政の圧迫が懸念されます。